

Do CL Column

季刊誌を読んで

C. S.

『助けようとする深い思いやりについて』

弟子の僧が、自分も雪の中に横たえた。

はあ？「助けて～」に対する必要な行動は、師匠を引っ張り上げることで？
最初、軽くしか考えられなかった私でした。深い意味があったのですね。

「私たちは本質的にこの世においてただ一人です」という一文が胸に響きました。

そのように達観できているなら「～してもらえなかった」ことから生じるごちゃごちゃした感情や、出来事に振り回されずに済みますね。

毎週、点滴のために病院に行くのですが、窮地にある知人とバツタリ、病院で会うかもしれないのです。

その時、なんて言うか。全く思い付かないのです。言葉は出てきそうにありません。知人を見掛けたら、小走りに近づき、手を握ろうと思っています。せめて、ぬくもりを。

『クリーンボックスプロジェクト』

積み重ねがこんなに、爽やかなごみステーションを作るのですね。
面倒なことを想像し、潰されそうに、大きなプロジェクトを達成するのは、CLの力ですね。

箱根駅伝で優勝したチームの山登りの区間の選手に対する「どこを見て走ったのですか？」という問いの答えは「斜め下を見ていた」でした。

ゴールは長い、長い坂道の果て。走る前に気力が弱まりそう、だから斜め下を見ながら確実に一歩一歩前に進むということでしょうか。

話はそれますが、田舎では、朝、昼、晩に一回づつ程度にしかバスがありません。

先日、買い物は、往復歩くつもりでしたが、増えた荷物の重さに、これを背負って 30 分も歩くななんて無理！無理！と挫折しそうになりました。

無理と考え出すと、アレヤコレヤの障害物ばかり連想し始めます。800 円もタクシー代に使いたくないです。

そこで、駅伝選手のように、斜め下だけ見て歩き出しました。

一歩先に石ころなどは無いか、確認するのと、前進するのが、今のなすべきこと。

重いリュックを背負い、何かに取り憑かれたような形相で、必死に斜め下を睨み続けながら、テクテク歩くトシオンナ。

「ここはどこ？」と顔を上げると、あと 10 分で家に着きそうな地点まで進んでいました。ここまで来れば顔を上げ、ゴールを見つめながらでも歩けます。



私に出来ることは、ひとつひとつ行動することのみと、再認識も出来ました。芹澤様の『クリーンボックス購入プロジェクト』もゴールは高い山の向こうのように、面倒なことが山のように積まれていたプロジェクト。

人は、コントロールできないから、負担金を出したくない方がいたら、お願いしなくても良いという、ひとつひとつの積み重ねが面倒なプロジェクトを成し遂げたのですね。

『CLdiary』

7月22日の最後に「私の心配は、だいたいが取り越し苦労に終わるのだけれど、また同じことがあったら、またとても心配するのだろうか…」というとても、なめらかな村田様の考え方に感服致しました。

私なら「二度と心配はしない」とか、極端に考える単細胞です。同じ失敗を繰り返すと、自分は駄目な奴と落ち込むことの繰り返し。

自分自身だけでなく、誰かに対しても「あ、あれほど反省したと言ってたのに、また、同じ間違いを繰り返している」と冷たい視線を送るタイプです。

「また、とても心配するのだろうか…」と書かれた村田様は洞察力に富んだ方ですね。(岩手県)

 [目次へ戻る](#)